様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　 ５ 月 ２７ 日現在

機関番号：１７４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００４２０

研究課題名（和文）第二次大戦後のホワイトライフ小説の時代現象とアフリカ系アメリカ文学の伝統

研究課題名（英文）White-life Novels in the Post-WWII Period and the African-American Literary Tradition

研究代表者
永尾　悟（Nagao, Satoru）

熊本大学・大学院人文社会科学研究部（文）・准教授

研究者番号：８０３８９５１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アフリカ系アメリカ人作家による白人主人公の小説、いわゆる「ホワイトライフ小説」について、その最盛期とされ20世紀中盤の作品を主な対象として、同時代の人種言説との呼応性と文学的伝統との交差性を探るものである。人種的他者としての白人を主体として描く文学形式とその展開について、黒人性表象の問題に終始しがちな先行研究では本格的に論じられることはなかった。そこで本研究は、これまであまり注目されなかった作品を中心に、手書き原稿、創作ノート、書簡などの未出版物、そして当時の批評書や雑誌媒体を精査しながら、ホワイトライフ小説の隆盛をひとつの時代現象として文化・歴史的視座から考察したものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ホワイトライフ小説は国内外ともに注目度が低く未だ未開拓の領域である。また、本研究の枠組みとなる白人性研究は、特に英語圏で既存の人文・社会科学を領域横断した複合的学際研究として1990年以降に発展してきた領域であるため、ホワイトライフ小説の時代現象を実証的に考察することで、白人性研究のケーススタディとして文学以外の分野にも幅広く発信することができる。さらに、アフリカ系アメリカ文学を通史的に論じた国内の先行研究においては、1940年代後半から60年代前半までの時代性に関する検証がまだ不十分である。よって本研究では、個別の作家や作品と時代状況との呼応関係について資料調査による実証的な分析を重視した。

研究成果の概要（英文）：This research aims to discuss white life novels, novels by African American writers featuring white protagonists, in terms of the historical context of the mid-twentieth century. Writers such as Frank Yerby and James Baldwin wrote white life novels to challenge the narrowly-prescribed premise that African-American writers represent their own racial groups and offer authentic images of their racial identity. This research analyzes how these novels represent whiteness to go beyond the dominant discourse of racial authenticity that appears to continue to this day.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アフリカ系アメリカ文学　ホワイト・ライフ小説　Frank Yerby　Richard Wright　James Baldwin　黒人性　白人性　エスニシティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

アフリカ系アメリカ人作家は彼らの人種について書くのが自明の前提とされたのに対して、白人を主人公に据えた彼らの作品は出版と批評の両面で見過ごされてきた。白人を描くことへの禁忌は作家たちも自覚しており、James Weldon Johnson によると「白いアメリカは、白人の文学領域で黒人が彼らと対等に競うことを歓迎しない」という意識が共有されてきた。しかし彼らの文学的想像力は、必ずしもこうした自制心や人種に対する狭義的概念にとらわれ続けていたわけではない。Robert Fikes, Jr.は「文学的ゲットーの脱出」 (1995) において、「非白人作家による白人を主要登場人物に据えた小説」を「ホワイトライフ小説 (white life novel)」と名付け、この形式がアフリカ系アメリカ文学の伝統として根付いてきた点を指摘する。Fikes は最初のホワイトライフ小説として Amelia E. Johnson の *Clarence and Corrine* (1890) を挙げるが、1988 年に Hortense J. Spillers の解説文付きで再版されたのを除けば、この作品が批評の対象となることはなかった。

19 世紀末以降に Paul Lawrence Dunbar の *Uncalled* (1898) や Charles W. Chesnutt の *The Colonel's Dream* (1905) によって形成されつつあったホワイトライフ小説の伝統は、第二次世界大戦後に大きな流れへと発展した。古典的研究 *The Negro Novel in America* (1958) の著者 Robert A. Bone は、「1945 年から 1952 年までに書かれた 33 の黒人小説のうち 13 作品は白人登場人物が中心」であり、人種統合の時代性を映し出す「同化主義的小説」だと述べる。こうした大戦後のホワイトライフ小説の流行と当時の批評的関心は、同時代の人種統合の言説とアフリカ系アメリカ文学の成熟に対する批評意識が背景にある。人種統合の言説については、公民権法制定に向かう社会的機運や「人類は一つである」とうたった 1950 年版「ユネスコの人種に関する声明」のように、大戦以前の優生学思想を覆す反人種主義的価値観が共有され始めた。アフリカ系アメリカ文学の成熟については、自らの人種的表現を重視する従来的な作品形式からの脱却と主題の普遍性に対する議論の高まりが挙げられる。この事例として、W. E. B. Du Bois 創刊の雑誌 Phylon の 1950 年特集号は、アフリカ系アメリカ文学が「人種的な出自や境遇に基づかずに評価される『ラベル付けされない』未来に向かえるか」を共通の問いに設定している。

大戦後におけるホワイトライフ小説の時代現象はこれまでほとんど注目されなかった。なぜなら、Gene Andrew Jarret が指摘するように、アフリカ系アメリカ文学の「真正性」は人種にまつわる歴史的・社会的現実を忠実に描く「人種的リアリズム」を基準に判断されてきたからである。この基準は作家側も自覚しており、James Baldwin が「代表／表象 (representation) の責務」と表現したように、彼らは人種全体を代表して表象する「公的な役割」を求められ、人種の共通経験を書くことが「真正性」の条件とされた。しかし、この基準を見直す試みが近年見られ、ホワイトライフ小説を中心に編纂されたアンソロジー*African American Literature beyond Race* (2006) 以降、2010 年代には Stephanie Li や Veronica Watson などによる研究書が数冊出版された。これらの先行研究は、画期的でありながらも個別の作品研究の側面が強いため、具体的な時代文脈や理論的枠組みによる論考が求められる。

そこで本研究では、ホワイトライフ小説の隆盛を第二次世界大戦後の時代現象として捉えながら、①それ以前の文学・思想的伝統との関連性や差異は何か、②同時代の人種言説といかに呼応しているのか、③各作家の執筆・出版背景について、こうした伝統や同時代性の視点からいかなる意味づけが可能か、という 3 つの問いを設定した。とりわけ③を考察する意義は、アフリカ系アメリカ文学作品の市場価値が高まっていた当時、作家たちは、大手出版社、文芸エージェント、ブッククラブによって特定の文学的形式と作家像を強く期待されたからである。本研究で取り上げる Frank Yerby や James Baldwin は、アフリカ系アメリカ文学の人種的主題や言語の伝統と対峙した作家たちであり、また、ヨーロッパ体験を通してアメリカの人種言説を間大西洋的文脈で捉えようとした共通点を持つため、統一的な視座からの考察が可能である。

２．研究の目的

本研究の目的は、ホワイトライフ小説隆盛の時代・思想背景の考察、および、Frank Yerby、James Baldwin などの作品における白人性表象の同時代的相関性の検証である。思想背景については、Du Bois が *The Souls of the Black Folk* (1903) から 7 年後に“The Souls of the White Folk”を発表したように、黒人性と白人性との言説が表裏一体となって構築された人種概念が、主体と他者の二分法を越えて理論化された経緯を辿る。この思想背景が、人種的他者としての白人を主体として描く文学形式といかなる接点を持つのかを考察する。

主たる研究対象となる作品は、Frank Yerby の *The Foxes of Harrow* (1946)と James Baldwin の *Giovanni's Room* (1956) と *Another Country* (1962) である。これらの作品は、Baldwin を除いて今日あまり論じられていないが、出版当時は作家の人種的アイデンティティと執筆との関係をめぐり議論を呼んだ。これらが当時主流だった抗議小説や自伝的小説の裏書きだと考え、ホワイトライフ小説の系譜が黒人主体を前提としたアフリカ系アメリカ文学の裏面史であることを検証する。

３．研究の方法

本研究は、(1) ホワイトライフ小説成立の経緯と思想背景、(2) Frank Yerby による南部歴史ロマンスの書き換え、(3) James Baldwin と間大西洋的文脈で表象されるアメリカ白人性を考察した。(1)から(4)の研究内容と方法は以下の通りである。

(1) ホワイトライフ小説成立の経緯と思想背景

ホワイトライフ小説の伝統について、Dunbar や Chesnutt などによる先駆的作品の位置付けを踏まえ、第二次世界大戦後の隆盛に関わる人種統合の言説や白人性に関する思想史を俯瞰的に辿った。その際、*Challenge*、*Phylon*、*Common Ground* などの雑誌、Hugh M. Gloster の *Negro Voices in American Fiction* (1948) といった文学研究書などを紐解き、この時代におけるアフリカ系アメリカ文学をめぐる批評的意識とホワイトライフ小説への評価を検証し、当時の批評基準が 1960 年代から今日にかけての基準といかなる相違性を示すのかを議論した。

(2) Frank Yerby による南部歴史ロマンスの書き換え

Yerby が抗議文学的短編"Health Card" (1944) で O. Henry 賞を受賞しながら、その直後に南部大農園を舞台にした歴史ロマンス *The Foxes of Harrow* を執筆した意義を考察した。アイルランド系移民の主人公が土地と奴隷の所有により南部大農園主になるというこの物語が、歴史家 Cheryl I. Harris が定義する「所有」の特権と結びつく白人性の構築性を暴き出す点を論証した。創作について公的に語らない Yerby だが、ボストン大学図書館にある書簡、創作ノート、タイプ原稿を精査し、南部史的文脈によるホワイトライフ小説を執筆した背景を探った。

(3) James Baldwin と間大西洋的文脈で表象されるアメリカ白人性

James Baldwin の第二作目の小説 *Giovanni's Room* と第 3 作品目の小説 *Another Country* について、同一作品として書き始められた経緯を踏まえ、両作品で描かれるアメリカ白人表象について考察した。「国籍離脱者」のアフリカ系知識人の増加によりディアスポラ意識が高まった 1950 年代において、Baldwin は白人存在を地理的流動性のなかで空間表象することで、白人性を前提に構築されてきたアメリカの国家的アイデンティティを相対化しながら映し出そうとしたことを明らかにした。なお、両作品を考察するための補助線として、Baldwin の第一作目の小説 *Go Tell It on the Mountain*（1953）における黒人性表象についても論じた。

４．研究成果

前述した(1)～(3)の研究方法に従い、Frank Yerby と James Baldwin の小説について以下のような点を論じた。

Frank Yerby の第一作目の小説 *The Foxes of Harrow* における主人公の白人性に着目し、アメリカ南部大農園制度下の人種関係を描いた作者の意図と批評的視座について考察した。この作品は、黒人人作家による白人主人公の小説、いわゆるホワイトライフ小説で、第二次世界大戦後にこの小説形式が流行するさきがけとなった。人種統合の機運が高まっていたこの時代、アフリカ系アメリカ文学は見直しの段階にあったが、*The Foxes of Harrow* は、人種的他者である白人存在を主体の位置から描くことで表現形式の新たな可能性を示したと言える。Yerby が執筆前に残したメモには、アイルランド系移民である賭博師 Stephen Fox がニューオーリンズの白人クレオール社会の中で大農園主として名を馳せ、南北戦争を経て南部への帰属意識を強める物語の構想が綴られている。本研究ではこのメモを手掛かりとして、地域的かつ時代的特殊性の中で構築される白人性を捉える Yerby の試みについて論じた。

1948 年にアメリカを離れた James Baldwin が、主にフランスで執筆した第二作目の小説 *Giovanni's Room* は、アメリカにおける「白さ」とは何かという問いを投げかけている。語り手デイヴィッドは、第二次世界大戦後のパリで暮らすアングロ・サクソン系アメリカ人男性で、イタリア人男性ジョヴァンニとの同棲生活について回顧する。ボールドウィンは、語り手の視点から映し出されるジョヴァンニの人物像を通して、アメリカ白人性の複雑さをとらえようとする。第一作目の小説『山にのぼりて告げよ』は、ハーレムの黒人少年の成長を描く自伝的小説であるが、この作品の執筆以前から白人登場人物を中心に展開される *Ignorant Armies* という小説の構想があり、彼が 1948 年にヨーロッパに渡ってから *Giovanni's Room* と *Another Country* という二つの作品へと発展した。つまり、白人登場人物を中心的に描くことは、ボールドウィンの創作活動の起点にあったと言える。*Another Country* において、ニューヨークとパリで生きる南部白人の異性愛者と同性愛者を描いた意義を考察した。

上記のような研究成果を通して見えてきた課題として、とりわけ黒人作家たちが白人性を捉えようとする試みにおいて、彼らの人種的アイデンティティと文学的伝統との関係性をいかに考えるかという点である。黒人作家たちは、自らの人種的アイデンティティを前提にして真正な文学を書くべきだという「代表／表象の責務(the burden of representation)」を抱えており、彼らの文学的想像力や思想上の自由を妨げてきた。アフリカ系アメリカ文学の起源が奴隷体験記であることから、奴隷と人種的ルーツを共有する作家が「彼ら自身」についての共通体験の物語を書くことであるという単一性が真正性の条件となってきた。従って、伝統的に白人作家によって構築されてきた白人性の概念に対して、黒人作家が脱構築して新たな意味付けをしようとするこ

とは、アフリカ系アメリカ文学の伝統といかに結びつくのだろうか。さらに、白人／黒人作家たちの人種と南部をめぐる相互交渉は、地域性や時代性という枠組みを超えた知的、文学的潮流を生み出しているため、近年までの作品も考察の対象としながら、人種をめぐる文学的想像力の重層性を読み解いていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 永尾悟	４．巻 4
２．論文標題 ホワイト・エスニックの「黒さ」ー『ジョヴァンニの部屋』におけるイタリア人存在	５．発行年 2023年
３．雑誌名 人文科学論叢（熊本大学大学院人文社会科学研究部）	６．最初と最後の頁 177-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 永尾悟	４．巻 74
２．論文標題 「時間の外にある都市」－『山にのぼりて告げよ』におけるハーレムと教会	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本英文学会九州支部第74回大会Proceedings	６．最初と最後の頁 35-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Satoru Nagao	４．巻 第63・64合併号
２．論文標題 Southern Whiteness in the Transatlantic Imagination in James Baldwin's Another Country	５．発行年 2021年
３．雑誌名 熊本大学英語英文学	６．最初と最後の頁 135-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Satoru Nagao	４．巻 13
２．論文標題 The "Costume" Performance of Racial Identity: Racializing Southern Whiteness in Frank Yerby's The Foxes of Harrow	５．発行年 2020年
３．雑誌名 多民族研究	６．最初と最後の頁 105-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 永尾悟	４．巻 5
２．論文標題 人種の主題をめぐる軌跡ー原稿から読み解く『もう一つの国』	５．発行年 2024年
３．雑誌名 人文科学論叢（熊本大学大学院人文社会科学研究部）	６．最初と最後の頁 53-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 永尾悟
２．発表標題 「時間の外にある都市」－『山にのぼりて告げよ』におけるハーレムと教会
３．学会等名 日本英文学会九州支部第74回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 永尾悟
２．発表標題 ホワイト・エスニックの「黒さ」―James Baldwin が描くイタリア人存在
３．学会等名 九州アメリカ文学会第67回大会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計2件

１．著者名 藤野功一（編著）	４．発行年 2023年
２．出版社 開文社	５．総ページ数 397
３．書名 都市と連帯ー文学的ニューヨークの探究	

１．著者名 山本伸＋西垣内磨留美＋馬場聡編著	４．発行年 2020年
２．出版社 三月社	５．総ページ数 304
３．書名 ブラック・ライブズ・スタディーズ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関